

NLB における多義動詞「浮く」についての意味分析

－日本語学習者の立場から－

劉 艶偉・江 波
LIU Yanwei・JIANG Bo
中国大連理工大学

Gehrtz 三隅 友子
GEHRTZ-MISUMI Tomoko
徳島大学国際センター

要旨

本稿では日本語学習者の立場から「浮く」の意味分析を行った。NLB で検索された共起頻度、MI スコアと LD 係数によって、「～が浮く」と共起関係が強い名詞が判断できる。これらの共起名詞に基づいて別義を考察し、別義の使用される順位をつけた上で、学習者に学ばせるのは科学的にも効率的にもなる方法である。考察の結果、次の 8 つの別義は学習者が習得すべきである。(1) 物が底や地面などから離れて空中などに存在する (2) 皮膚の表面に、分泌物や斑点などが現れる (3) 歯がゆるんだりしっかり固定しない状態になる (4) 腰が不安定な態勢になる (5) 顔に不機嫌そうな表情が現れる (6) うまく処理したために、金銭が予定より少なくて済み、余分が出る (7) 野球やテニスなどで、投球や打球が制球力をなくして浮き上がったようになる (8) 本体の一部が遊離したりがたが来たりする。

キーワード：NLB、別義、共起、MI スコア、LD 係数

1. はじめに

二つ以上の意義素を有する多義語がどの言語においても一般的な言語現象である。しかも、基本的な語ほど意味が広く、派生的な用法も多く、日本語学習者を悩ませることが多い。「浮く」がその一つである。「いい考えが浮きました」のような学習者からの誤用例や「腰が浮かないようにする」の意味が理解できない場合がよくある。辞書に載っている「浮く」の意味解釈がそれぞれ違う。『岩波国語辞典 第 5 版』(以下は『岩』)からの解釈項目が 3 つであり、『新明解国語辞典』(以下は『新』)、『明鏡国語辞典』(以下は『明』)がそれぞれ 6 つと 12 である。これが日本語学習者の誤用の原因になりかねない。そして、今までの日本語教育の現場でも「浮く」の多様な意味を個別に教えるだけで、よく使われている意味はどれか、意味相互間の関係についての学習や理解などは学習者一人一人に委ねられてしまうことが普通であった。本稿では、学習者の立場から NLB に基づいて、多義動詞「浮く」の意味分析を試みようとする。

2. 先行研究

2.1. 多義語の定義

国広 (1982) は多義語 (polysemic word)

とは、同一の音形に意味的に何らかの関連を持つ二つ以上の意味が結びついている語を言う、と定義している。森田 (1986) は、同一の語が、区別のある意味を複数個含んでいる状態を多義と称し、その語を多義語と呼んでいる。本稿では国広 (1982) と森田 (1986) の定義を踏まえて考察する。

2.2. 「浮く」の先行研究

「浮く」に視点を置いた先行研究が見つからなかった。利用できるのは辞書だけである。筆者は中国人日本語学習者がよく使っている三つの辞書を考察し、表 1 に整理した。

表 1 「浮く」の辞書的意味

| | |
|-----|--|
| 『岩』 | ① 底または下のほうから表面に出てくる。また、そこを離れて中間にある。→沈む。「プールに体がー」「脂が肌にー」「空にー雲」「模様がーいて見える」 |
| | ② 基礎・基盤・よりどころが、ゆるんだりなくなったりした状態だ。 ア. ぐらぐらする。しっかり固定していない。「歯がー」「くぎがー」周りの人と密な関係 |

| | | | |
|-----|---|-----|---|
| | <p>が結べない状態にある。浮き上がる。「課の中で独りー・いた存在だ」</p> <p>イ. 心がうきうきする。浮かれる。→沈む。「ー・かぬ顔」</p> <p>ウ. うわついて軽々しい。軽薄だ。「ー・いたうわさ」(男女関係についてのうわさ)</p> <p>③ (節約して) 残りが出る。「費用が千円ー」</p> | | <p>ら] 経費・時間などの余裕が生じる。「五千二百五十万円もの予算がー/宿代がー」</p> <p>⑥ [野球で] ストライクをねらったボールが決まらずに、高目にそれる。「△球が(高目に)ー」</p> |
| 『新』 | <p>① <(どこカラ) どこ (なに) ニ→何かに支えられることなく、空中・水面に漂ったり 空中に停止したりする。「魚がー [= (a)海面近くを泳ぐ。(b)死んで、水面に上がり腹を上へ向ける] / 人が空中にー [= 支え無しで停止しているように見える] / 宙にー [= ⇒ 宙] / 汚物がー [= 漂う] 大川/浮き橋・浮き船」⇔沈む</p> <p>② <どこ (なに) ニ→その成分が、物の表面に一面に広がっていたり、にじみ出ているのが見える。「グランドに水が浮き、光っている/△さび(脂)がー/水草が一杯浮いて [= 水面に生い広がって] いる」</p> <p>③ <どこ (なに) ニー> (A)地(ジ)から、その部分だけ文様・図柄が突出して見える。「△青筋(静脈)が浮いて見える/浮き上がる・浮き彫り」(B)本体の一部が遊離したりがたが来たり △する(して、不具合になる)。「土台がー [= すきまが生じる] / 歯がー [= ⇒ 歯] (ようなお世辞)」</p> <p>④ 大勢の中で、その者だけ孤立して見える。「突然、変な質問をして、自分だけ浮いちゃったこともありました」</p> <p>⑤ [やりくり・金利低下や当初予定されていた用件の減少などか</p> | 『明』 | <p>① 物が地面や水底などを離れて、空中・水面・水中にとどまった状態になる。「投げを食らって体がー瞬宙にー」「空にぽっかりー・いた雲」「水鳥が波にぷかぷかー・いている」</p> <p>② 比重・浮力・揚力などの作用で、物が浮くことのできる性質をもつ。水面や空中にとどまることできる。「木は水にー」③物が水中で生じたり水中を移動したりして、水面に現れる。「沼の底からぶくぶくと泡がー」「灰汁あくがー」</p> <p>③ 皮膚の表面に、分泌物や斑点はんてんなどが現れる。浮き出る。「顔に脂がー」「両腕に血管が青くー・いて見える」</p> <p>④ 模様が下地から離れて、上に飛び出したように見える。浮き上がる。浮き出る。「花模様がー・いて見える」</p> <p>⑤ 固定した基盤から離れた状態になる。「金具が基盤からー」「歯がー・いてぐらぐらする」</p> <p>⑥ 集団になじまない状態になる。「場違いな服装で周囲からー」</p> <p>⑦ 心が浮き浮きする。「ー・かぬ(＝不機嫌そうな)顔」</p> <p>⑧ [やや古風な言い方で] 心が落ち着かず、浮うわついている。また、浮ついた気持ちで恋愛や情事に関係している。「心構えがー・いていては大事は任せられない」「ー・いた(＝色めいた)噂うわさが絶えない」</p> <p>⑨ うまく処理したために、金銭や時間に余分が出る。「節約すれば旅費がー」</p> |

| | |
|---|---|
| ⑩ | ボクシングなどのスポーツで、腰の不安定な態勢になる。 「腰が一・いたところにパンチが入る」 ⇔ 据わる・入る |
| ⑪ | マージャンで、持ち点を上回った成績を上げる。「一人だけ一」 |
| ⑫ | 野球やテニスなどで、投球や打球が制球力をなくして浮き上がったようになる。うわずる。「ボールが高めに一」 |

表 1 から辞書的意味の不均衡であることが分かった。「浮」は中国の漢字であり、『現代漢語詞典 第 3 版』による「浮」の基本義は「停留在液体表面上（跟‘沉’相对）」ということと、すなわち、「物が液体の表面にとまること」である。多義語の複数の意味全体を 1 つのカテゴリーと考えた場合、カテゴリーのメンバーの間には、典型的な意味（基本義）とそうでない意味（別義）との違いが存在し、全く同一の意味はないが、部分的に類似した意味が混在することによって、カテゴリー全体としての統一を保っていると考えられる。日本語学習者にとって基本義の習得は易しいが、別義の習得は難しいことである。そして、すべての意味を網羅して全部覚える必要があるかどうか問われる。基本義から別義への習得コースが認められているが、別義、つまりカテゴリーのメンバーが多雑で、どれがよく使われているか、どれを先に習得すればいいか、実に学習者を悩ませている。

3. 研究方法

近年、コーパスに基づいた日本語の研究が注目されている。その中にコロケーションの重要性が多く指摘されている（田野村 2009、大曾 2003）。田野村（2009）は、コロケーションに関する情報が得られたとき、それには 2 種類の用途が考えられる。その一つは、語義の精密な分析・記述のための考察材料としての用途である。特に、類義的な表現の意味の差を考える際には、当該の表現がどのような文脈でよく生起するかを観察することが大きな手がかりとなる。

本稿では、コロケーションや文法の振舞い

の情報を抽出するために開発された NLB コーパスを使用する。NLB は（NINJAL-LWP for BCCW）国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を検索するために、国立国語研究所と言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。趙（2015）が発表された論文に NLB で表示される各統計値、つまり共起頻度、MI スコア、LD 係数の説明が詳しいので、ここでの説明を省略する。

本稿では NLB の統計値に基づいて、日本語学習者の立場から「浮く」の別義を考察し、共起関係の強さによって別義の使用される順位をつけようとする。

4. 結果と考察

4.1. 「名詞＋が浮く」の共起情報

NLB を用いて検索した結果を表 2 に示す。

「名詞＋が浮く」の頻度の中で、上位 20 語をそれぞれ抽出し、MI スコアと LD 係数も考えてコロケーションの特徴を見る。

表－2 名詞＋が浮く（上位 20 語）

| 順序 | 名詞＋が浮く（266 種類） | | | |
|----|----------------|----|-------|--------|
| | 共現名詞 | 頻数 | MI | LD |
| 1 | 汗 | 17 | 9.53 | 6.61 |
| 2 | 歯 | 16 | 9.67 | 6.74 |
| 3 | 体 | 14 | 6.07 | 3.26 |
| 4 | 身体 | 11 | 7.81 | 4.95 |
| 5 | 腰 | 10 | 8.34 | 5.45 |
| 6 | 氷 | 8 | 9.70 | 6.62 |
| 7 | 色 | 8 | 6.58 | 3.76 |
| 8 | 足 | 6 | 6.47 | 3.63 |
| 9 | 血管 | 6 | 9.39 | 6.29 |
| 10 | 脂 | 6 | 10.43 | 7.07 |
| 11 | 代 | 6 | 6.60 | 3.76 |
| 12 | ボール | 6 | 7.89 | 4.98 |
| 13 | 雲 | 5 | 8.18 | 5.22 |
| 14 | 部分 | 5 | 5.61 | 2.79 |
| 15 | 踵 | 5 | 10.40 | 6.96 |
| 16 | 油 | 5 | 8.07 | 5.12 |
| 17 | 人 | 5 | 1.88 | - 0.91 |
| 18 | 顔 | 4 | 4.62 | 1.81 |
| 19 | 笑み | 4 | 9.12 | 5.96 |
| 20 | 泡 | 4 | 9.98 | 6.57 |

4.2. 検索結果の考察

表2から分かるように、「顔」「笑み」「泡」の頻度は4で、5を下回る場合は統計的な価値がないと見なし、MI スコアと LD 係数が3を上回っても、強い共起関係を持つとは言えない。また、「人」の頻度は5であるものの、LD 係数は -0.91 で、共起関係が弱いことが分かった。残っている16個の名詞は共起頻度、MI スコアと LD 係数から見ればみな「が浮く」との共起関係が強い。この16個の共起名詞と NLB が検索されたそれぞれの例文に基づいて「浮く」の別義を考察し、共起関係の強さで別義の使用される順位をつける。

4.2.1. 多義的別義 (1) 物が底や地面などから離れて空中などに存在する。

共起表現→雲が浮く、体が浮く、身体が浮く、足が浮く

- (1) 綿の新緑を揺らして、風が吹いている。蒼い天には、夕刻の光を受けた白い雲が浮いている。(夢枕獏著 『沙門空海唐の国にて鬼と宴す』, 2004, 913)
- (2) 吉良氏は手を頭の上において「ウーン」と力を入れた。すると体が宙に浮いたように軽くなった。吉良氏の言う通り絶対に信じてその通りにした。(谷川健一責任編集 『日本民俗文化資料集成』, 1989, 380)
- (3) 小学校中学年の頃まで、年に四分の一は病気欠席していた。学校に来ても身体が宙に浮いているような感覚であったというから、かなりの重症だったのであろう。性質もおとなしく、人前で喋ることもできない少年だった。(松下隆一著 『北神けいろの挑戦』, 2003, 289)
- (4) 孫小紅はふと立ちくらみに襲われた。足が宙に浮いて、万丈の谷底へ落ちていく気分だ。ふらりと扉に倒れかかって、孫小紅は滝のように涙を流した。(古龍著;岡崎由美訳 『多情剣客無情剣』, 2002, 923)

「浮く」の基本義は「物が液体の表面にとまること」であり、例文1～4には「天に雲が浮く」「体／身体／足が宙に浮く」、みな「液体の表面にとまる」ではない。「天に雲が浮く」では雲が空に漂っている様子で、「体／身体／足が宙に浮く」では体などが何かに支えられることなく、ややに宙に漂っていく様子を表している。

4.2.2. 多義的別義 (2) 皮膚の表面に、分泌物などが現れる。

共起表現→汗が浮く、血管が浮く、脂が浮く

- (5) 緊張のあまりか、時折つつかえるが、それでも丁寧に一字一字を読みあげていく。鼻の頭に汗が浮いていた。小学一年生なりの必死な様子が窺えて、綾乃は胸が熱くなった。(永瀬隼介著 『永遠の咎』, 2005, 913)
- (6) 美弥子は顔をあげた。青ざめた顔、目のなかに細い血管が浮き、ひと晩で十歳も歳をとってしまったような顔だった。怒りと恐れ、悲しみと憎しみ、戸惑いと不安、すべての負の感情が入りまじった顔だった。(高嶋哲夫著 『トルーマン・レター』, 2001, 913)
- (7) 教授室の隣の喫煙室で、脚の低い安楽椅子に腰を掛けた百鬼園先生が、片手に火のついた巻煙草を持ったまま、目をつぶったり、開いたりしている。恐ろしく大きな顔の、額から頬にかけて、一面に脂が浮いているので、さわれば、ずるずるしそうな、あやふやした色が、光沢を帯びて無遠慮に光っている。(内田百閒著 『大貧帳』, 2003, 914)

汗と脂は皮膚から分泌するものであり、分泌したものが皮膚の表面に現れ出ることを表す。血管は分泌物ではないが、同じなのは血管は汗、脂のようにいつまでも皮膚の表面に見えるものではない、ある前提や条件が満足しなければ現れないものである。

4.2.3. 多義的別義 (3) 歯がゆるんだりしっかり固定しない状態になる。

- (8) 歯茎がくすぐったいような感じで、歯に力が入れられなくなります。歯槽膿漏になっている場合に、歯が浮くことはよくあります。歯医者さんに行かれるのが一番ですが、指先に塩を付けて歯茎をマッサージされても軽ければ治るかもしれませんが、やはり歯科医院にお出掛け下さい。(Yahoo!知恵袋, 2005, 健康、病気、ダイエット)
- (9) しかし私が明らかにしておきたいことは、このような利益を手にするために、現在どれほどの犠牲が払われているか、そして、不利益を少しもこうむらず、すべての利益を確保することができる生き方が可能であることを私は示唆したいのである。「貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいる」とか、「先祖が酔い葡萄を食べれば、子孫の歯が浮く」という諺は、どういう意味なのか？(ヘンリー・D. ソロー著;佐渡谷重信訳 『森の生活』, 1991, 934)
- (10) 歯が浮かない程度にやや誇張してほめることが大切です。例『今日はよく我慢しましたね、えらかったです』『きれいに磨けるようになりました、よくできています』など。(瀬畑宏著 『これから始める障害者歯科』, 2002, 497)

「歯が浮く」は一つの慣用表現である。例文8にある「歯が浮く」は歯がぐらぐらしている状態を表し、別義3と一致する。例文9にあるのは別義3と違って、「不快な音を聞いたり、酸っぱい物を食べたりして歯の根がゆるんで浮くように感ずる」という意味である。例文10にあるのは「そらぞらしく、きざな言動に対して気持ち悪く感ずる」の意味である。「歯が浮く」の共起頻度は16で、MIスコアは9.67、LD係数は6.74である。統計値から見れば「歯が浮く」の共起関係が強いことが分かる。学習者の立場から一一の別義を覚えるより、「歯が浮く」を一つの慣用表現として覚えておけば習得しやすい

いため、分けないで一つの項目として処理する。

4.2.4. 多義的別義 (4) 腰が不安定な態勢になる

- (11) そして腹筋をします。完全に起き上がるのではなくて、背中が床から離れるくらいのところまでで腰が浮かないようにします。回数は徐々に増やせばいいと思います。(Yahoo!知恵袋, 2005, 健康、病気、ダイエット)
- (12) 私の席の後ろがざわざわはじめた。振り向くと観光客らしい六〇代とおぼしき男性たち12～13の腰が浮いている。突然一人の男が立ち上がり「皆さん、もうすぐ琴平です。」(田窪恭治著 『表現の現場』, 2003, 704)

表1から分かるように、この別義に触れているのは『明』だけである。しかし、「ボクシングなどのスポーツで、腰の不安定な態勢になる」という解釈は学習者を悩ませかねない。「柔道やボクシングなどで、相手の腰を浮かせるようにして自分の腰に乗せる」という別義はスポーツの専門用語の存在で、学習者にとっては難しすぎる。実は、「腰が浮く」も一つの慣用表現で、例文11にある「腰が浮く」は背中が床やベッドから離れる状態を表し、例文12にはあわてたり、動揺したりして落ち着かない状態を表している。例文11、12に使われた「腰が浮く」の別義は共起頻度が高いものの、『岩』『新』『明』に記されていない。

4.2.5. 多義的別義 (5) 顔に不機嫌そうな表情が現れる。

- (13) 毎夜、自分がいまだに城下町を白い着物を着て猫を連れて徘徊しているとは白状しなかった。ただ、その表情に一抹の怪訝な色が浮いていた。吉之助にしても、信じられないといった表情だ。(童門冬二著 『鍋島直茂』, 2004, 913)
- (14) そのなかにはムジナもいた。これま

でものに動じたことのないムジナの顔にも焦りの色が浮いていた。渦刺が潜ってからすでに八半刻（十五分）はたっている。（黒岩重吾著『女龍王神功皇后』，2002，913）

例文13には「表情に怪訝な色」、例文14には「顔に焦りの色」、二つとも不機嫌そうな表情である。この別義は『岩』と『明』にも載っている。しかし、解釈はそれぞれ「心がうきうきする。浮かれる」と「心が浮き浮きする」とプラスであるが、後に付いている例文は「一・かぬ顔」「一・かぬ（＝不機嫌そうな）顔」というマイナスな表現になる。学習者の習得習慣は辞書の解釈を読んで理解するぐらいで、例文から別義のプラス性、マイナス性の傾向を察する能力が足りない。一目瞭然に「顔に不機嫌そうな表情が現れる」になったら習得しやすくなるのではないだろうと考えられる。

4.2.6. 多義的別義（6）うまく処理したために、金銭が予定より少なくて済み、余分が出る。

(15) 仲人には、ふたりに届けます。毎日会う会社関係者には、手渡しすると切手代が少し浮きます。また、夫婦で出席してもらえる場合は、招待状は一枚でかまいません。（上林山瓊子監修；徳留千絵子著『ふたりのオリジナルプラン』，2003，385）

(16) 特典をチェックしての会場探しで、北海道旅行付きのホテルの挙式に最終的に決定。新婚旅行代が浮きました。（上林山瓊子監修；徳留千絵子著『ふたりのオリジナルプラン』，2003，385）

この別義は3つの辞書にも載っている。『岩』にの解釈は「費用が千円浮く」であるが、NLBに出た共起名詞は「費用」や「お金」でなく、「映画代」「宿代」「昼食代」「切手代」「旅行代」の「～代」である。無論、「～代」も「費用」「お金」の一部であるが、「浮く」と共起する場合はただ、3年後くらいから補修部分がうっすら浮いて出るように見えます。普通には分からない程度。（Yahoo!知恵

「～代」の共起関係が強いであることが分かった。学習者に「～代が浮く」のように教えれば科学的にも効率的にもなるだろう。

4.2.7. 多義的別義（7）野球やテニスなどで、投球や打球が制球力をなくして浮き上がったようになる。

(17) ロングアイアンよりウッドで打ったほうがうまくいく場合もあります。ただし、それはボールが浮いている場合の話。ラフに潜ったボールをウッドで打ち込んで出すという方法も、対処法としてあるにはありますが、アマチュアの技術では果たしてヘッドがボールにうまく届くかどうか。（宮里優著『宮里藍に教えてきたこと』，2005，783）

(18) こちらは、上よりもスピンを多めにした例。ただし、フォロースルーは通常と違い、前方で小さくワイパーさせてボールが浮くのを防ぎ、フィニッシュも低くなっている。こちらのほうがアウトやネットのミスが出にくく、アマチュアにも真似しやすいだろう。（月刊 TENNIS JOURNAL，2005，スポーツ）

この別義は『新』と『明』にも載っているが、『岩』には載っていない。

4.2.8. 多義的別義（8）本体の一部が遊離したりがたが来たりする。

(19) 色が黒いのもも熟れてないのがたまにありますね。ヘタの部分が実から少し浮いていてグラグラしているのも熟れているかどうかの判断になります。まだ熟れていなくて硬い場合はラップしてレンジでチンすると触感は蒸かしたジャガイモみたいで味は枝豆みたいで美味しくいただけます。（Yahoo!知恵袋，2005，料理、グルメ、レシピ）

(20) 仕上がりはまずまず。

袋，2005，自動車）

この別義に触れたのは『新』だけ

で、「歯が浮く」もこの別義の帰属された。本稿で「歯が浮く」を別に挙げたのは、それが3つの意味(4.2.3参照)を含んでいる慣用表現であり、学習者にとって多難からである。また、「部分が浮く」の共起関係も強く、学習者に習得させる必要があると考えられる。

5. まとめ

本稿では日本語学習者の立場から「浮く」の別義分析を行った。辞書に挙げられている別義が多かったり、少なかったりであるため、どの辞書に従えばいいか、多種多様な別義を全部覚える必要があるかどうか、実に学習者を悩ませている。NLBで検索した共起頻度、MIスコアとLD係数によって、「～が浮く」と共起関係が強い名詞が判断できる。これらの共起に基づいて別義を考察し、別義の使用される順位をつけた上で、学習者に習得させるのは科学的にも効率的にもなる方法である。「浮く」の別義と使用される順位は以下のとおりである。

多義的別義 (1) 物が底や地面などから離れて空中などに存在する。

多義的別義 (2) 皮膚の表面に、分泌物や斑点などが現れる。

多義的別義 (3) 歯がゆるんだりしっかり固定しない状態になる。

多義的別義 (4) 腰が不安定な態勢になる。

多義的別義 (5) 顔に不機嫌そうな表情が現れる。

多義的別義 (6) うまく処理したために、金銭が予定より少なくて済み、余分が出る。

多義的別義 (7) 野球やテニスなどで、打球や打球が制球力をなくして浮き上がったようになる。

多義的別義 (8) 本体の一部が遊離したりがたが来たりする。

本研究は以下の科学研究費助成事業の中間成果である。

①2017年度中国、国家社会科学基金一般項目：＜発話行為分析のための日本語のマルチモーダルコーパスの構築及び応用についての研究＞、17BYY192

②2016年度遼寧省社会科学院企画項目：＜ビデオコーパスに基づいた日本語間接行為の語用研究＞、ZX20160637

参考文献

- 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店
西尾実(1999)『岩波国語辞典 第五版』岩波書店
北原保雄(2002)『明鏡国語辞典 第一版』大修館書店
金田一京助(1999)『新明解国語辞典 第五版』三省堂
森田(1989)「同音語 多義語」．『講座 日本語と日本語教育 第6巻 日本語の語彙・意味(上)』宮地裕ほか pp. 265－266
田野村忠温(2009)「コーパスからのコロケーション情報抽出—分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作—」．『阪大日本語研究』21:pp. 22
趙聖花・劉玉琴(2015)「コーパスに基づいたコロケーション分析—「素敵」「立派」「素晴らしい」を例に」．『徳島大学国際センター紀要・年報』3:pp. 24－30
田野村忠温(1994)「丁寧体の述語否定形の選択に関する計量の調査—「～ません」と「～ないです」」．『大阪外国語大学論集』pp. 21－41, 一心社
大曾美恵子(2002)「コーパスから得られるコロケーション情報—『影響、刺激、感動』を中心に—」